

九州大学

農学部創立百周年記念事業「記念建築物用材伐採式」を開催

九州大学農学部は、1919（大正8）年2月に九州帝国大学農学部として設置され、2019年（令和元年）「創立百周年」を迎えました。10月19日（土）に伊都キャンパスの農学系研究棟において記念式典、記念講演会などが執り行われましたが、さらに、その記念事業の一環として、来年度に農学系研究棟（ウエスト5号館）の南側の芝生地に木造の記念建築物の建立も計画されています。この記念建築物の柱材を演習林から提供することになり、2018年12月21日（金）に福岡演習林の第15林において「記念建築物用材伐採式」を執り行いました。

当日は、時折小雨が降る天候でしたが、午後2時過ぎごろから時折晴れ間も見えはじめ、福田晋農学部長、農学部百周年記念事業会委員、農学部および演習林の教職員など約30人が参列し、立木伐採の神事を執り行いました（写真1）。その後、まず初めに、福田農学部長が伐採予定の98年生スギ大径木に斧入れを行った（写真2）後に、82歳の超熟練の伐採作業員さんがチェーンソーで伐倒を行い、伐採式は滞りなく終了しました。

参加者からは、根元直径約1メートル、樹高33メートルの巨木が倒伐される様を初めてご覧になった方も多く「目の当たりにすることができ、想像以上のすごい迫力だった」「82歳の伐採職人さんの熟練した技にとっても感動した」などの感想が聞かれました。

今回、6本のスギを伐採し、長さ5.5mの丸太6本を採材しましたが、記念建築物の設計では、柱材は製材せずに丸太のまま使用することになっているそうです。そこで、すべての丸太の皮剥ぎを地球森林科学コース3年生および演習林教職員が手作業で行いました（写真3）。現在、演習林構内で天然乾燥中で、どのような建築物が来年完成するのか楽しみです。（古賀信也）



写真1 伐採前に行われた神事



写真2 福田農学部長による斧入れ



写真3 地球森林科学コース3年生による皮剥作業